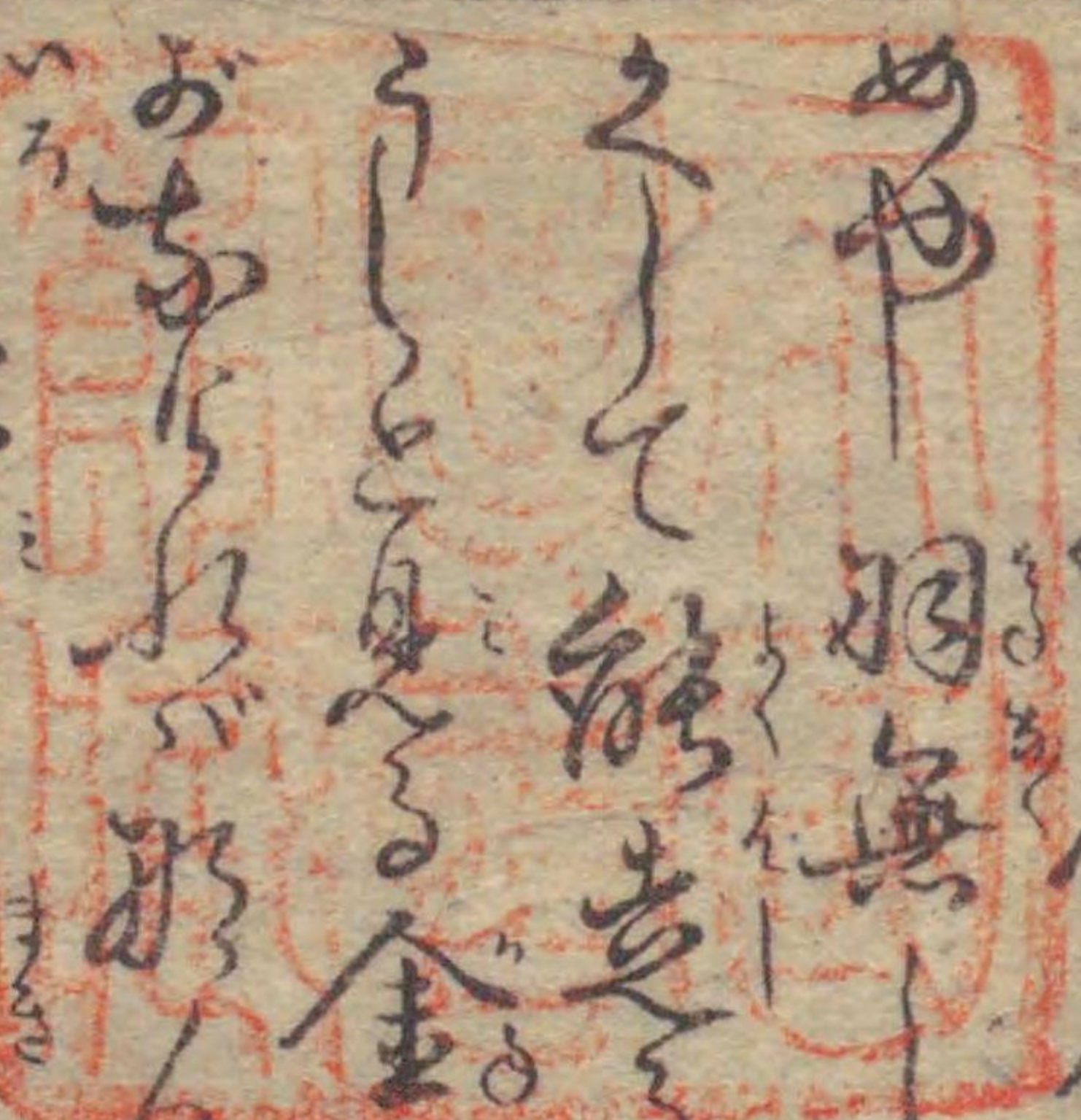




金春徳和歌隠居
柳上元
巻五
完

207
448

巻五

誘こゝろ曰いひ佛ぶつの光ひかり地獄ぢごくの沙汰さたと兵へい不ふ夫ぶ金かね以もつ弟てい
 之これをた仙せん術じゆつ道家どうか又また金かねをたもつ以もつてた弟てい
 也なり羽う無むしく能た能たおもたる一ひとのあ罾あし龍りゆう足あしをた
 之これをた能た走はるは二ふた百ひゃくのありて精せいをた漕くぐせと
 ううししとしるる金かね敵たかもも富貴ふき貧賤ひんけん嗟あままほほんの金かね
 おおちちりりおおのの人ひとののいいののああまま狂きやう友ゆうのの橋はし山さん明めい
 色いろ紅くわうのの生なまきき黄金くわんごん花はな咲さきき趣しゆ向むかふの何なにの
 目め出でるる尊そんをと取とりて目め出でるる以もつてた泉せん帝てい
 故こ事じ附つきき目め出でるる序あやせせししてた身み削くるる
 價あひ千金せんぎんのの春はる
 松しょう目め出でるる亭てい
 三さん馬ば叙じゆ






















てついでハあて
まうらでいそを
つけまへん

天人
はさきりか
あんなのいも
こけてら

これがが
天人のまけ
たれ

まうらあうら
うらあうら
ひんがうらあうら
仙人のまけ
あうらあうら

てついでハあて
まうらでいそを
つけまへん
天人のまけ
あうらあうら
仙人のまけ
あうらあうら

まうらあうら
うらあうら
ひんがうらあうら
仙人のまけ
あうらあうら

かやうのまけ
ひんがうらあうら
仙人のまけ
あうらあうら

まうらあうら
うらあうら
ひんがうらあうら
仙人のまけ
あうらあうら





天上のまじりの
ひまりのみんごさ
のそととこのあん
トハカからうとう
まつとせやく
どのそこの
わうらうた
かりい



天人もひりり三羽のはあへりて天の羽衣と
ひつとれまてとどろとてころちりしひひ
祐とてもろとせもきりたわりの天人か
すひさうてさうゆんあやうめつとつろま
あしもまればれいろうせちとせうせんせう
そん天上もけん甲のせかんとて天の羽衣
とんひのひひまろその羽とららうて
もあへちやのんひのそいらんて
まやろせんあへりてこのちの
もくととせうあへりてあやう
ころちてまて

せん人にハホをいふ
とまんめつとて
ころちとらうま

まろのまじりよ
あやう
うま

かひらとあかん
あせりせかろう
こしとらうて
十八とら
あうと
かこちつ
十二とら
めさ







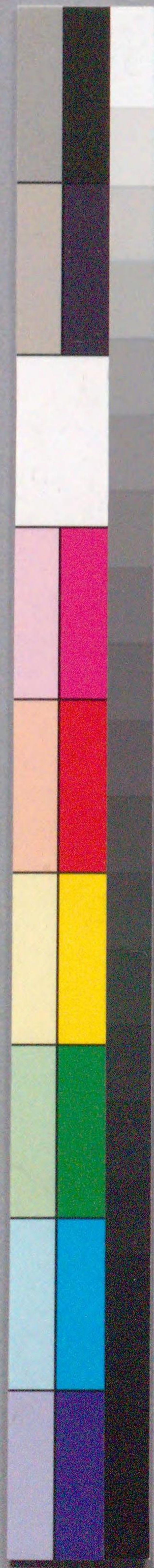




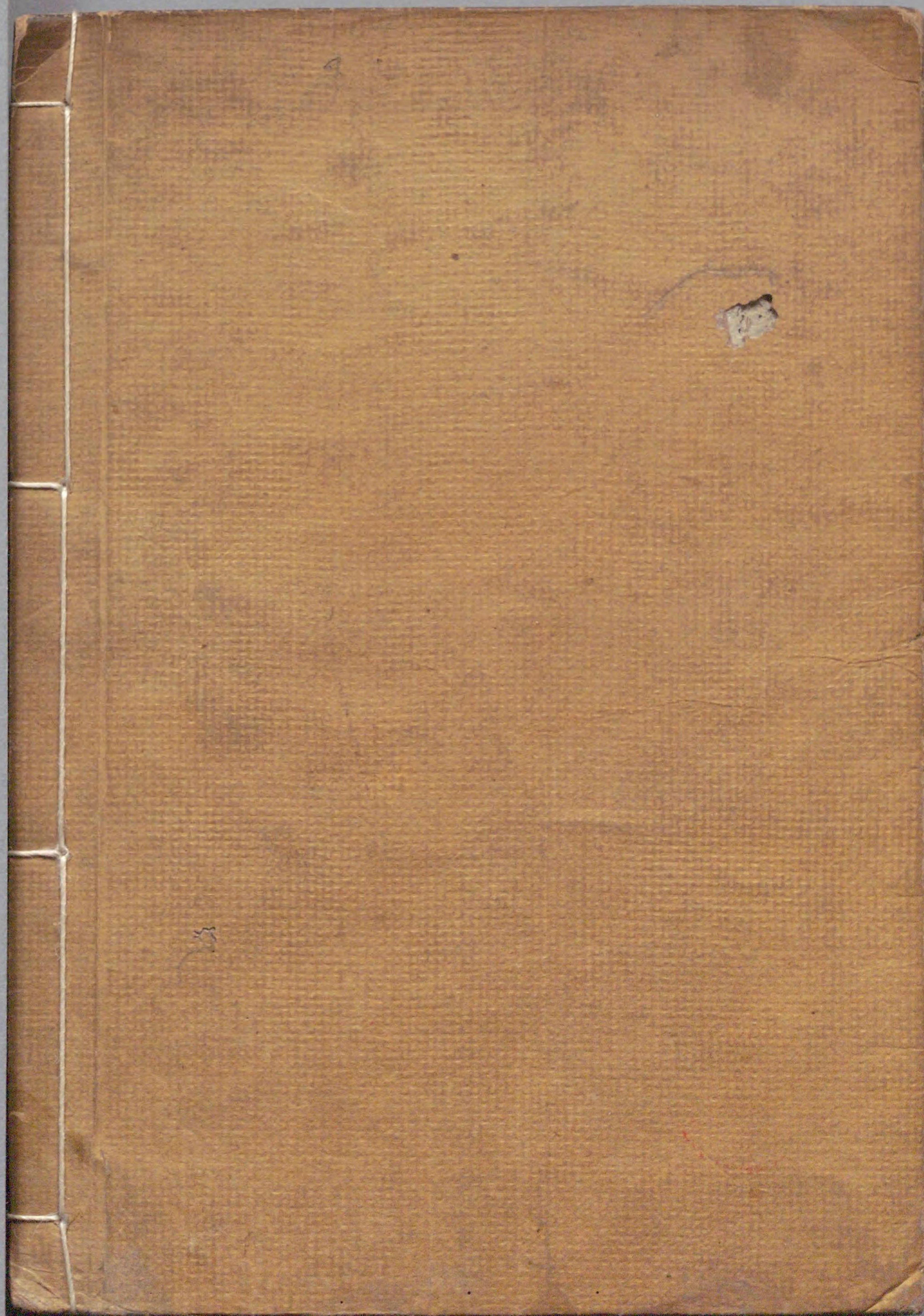
207
448



8 9 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50



国立国会図書館 金春徳和歌隠居：3巻 207-448



ガラス使用

